

APPEAL

発行者
JR 東海労関西地本
大阪台車検査車両所分会
2013年 9月19日
NO.43

2020年、東京オリンピック決定の裏で、とんでもないことが決まろうとしている！！（その1）

私たちの生活が脅かされる「秘密保全法」が提出されようとしています

9月8日に2020年の夏季オリンピックの開催地が東京に決まりました。このように国民の目が東京オリンピック決定に向けられている時、秋の臨時国会に私たちの生活が脅かされる恐れのある「秘密保全法」が提出されようとしています。

「秘密保全法」って何？

ところで、「秘密保全法」とはどういうものなのでしょうか？
また、なぜ、私たちの生活が脅かされる恐れがあるのでしょうか？
そもそも「秘密保全法」を政府が作りたかったきっかけは、一昨年起きた尖閣沖漁船衝突事件のビデオ映像がインターネットに流失したことがきっかけに、「今の法律では、国の安全にかかわる秘密の漏洩を防ぐ管理体制が不十分だ」として「もっと秘密保全法制を作りたいたい」ということです。

そして、法案の内容は「国の存立にとって重要な情報」を新たに「特別秘密」に指定し、秘密をあつかう人の「適性評価制度」を導入し、「特別秘密」を漏らした人は厳しく罰するなどを柱にしています。

ところで、この法案の一番の問題点は、何を「特別秘密」に指定するかは、行政機関が決め、第三者によるチェックがないということです。

たとえば、原子力発電所などの安全性や福島原発事故以後、どれくらいの放射線が大気に放出されたのか？など国民の興味があるようなことでも「特別秘密」にしてしまう可能性があります。

私たちが国民の権利として、知りたいことや知っておかなければならないことが、政府の勝手な意志によって知ることが出来なくなると、政府にとって都合の悪いことはどんどん隠蔽されるようになるのではないのでしょうか？！